

令和5年度 病害虫防除情報

令和6年2月14日

発表：福島県病害虫防除所

露地ギク栽培ほ場において、クロゲハナアザミウマによる被害を確認しています。
早期発見・早期防除により、地域内でのまん延を防ぎましょう。

- 1 対象作物：キク類（小ギク、輪ギク、スプレーギク等）
- 2 病害虫：クロゲハナアザミウマ (*Thrips nigropilosus* Uzel)
- 3 対象地域：全域

【発生経過】

- (1) 令和5年4月、生産現場からここ数年間、アザミウマ類によるキクの被害様相が変化しているとの連絡を受け、7月以降、予備調査として、県北、会津及び相双地域に露地ギクほ場を設け、叩き落とし法による調査を実施した。その結果、いずれの地域においてもクロゲハナアザミウマ（以下、「クロゲハナ」という。）（写真1）の寄生が認められた。
- (2) アザミウマ類による被害が多く見られた予察調査ほ場や生産現場から調査依頼があった露地ギクほ場を対象に、10月10日に会津、10月11日に県北、10月13日及び25日には相双地域の被害実態（ほ場当たり200茎、1茎当たり4葉調査）を調査した。その結果、この時点で会津地域での被害は小さく、クロゲハナの寄生は確認できなかった。一方、県北及び相双地域の一部では葉裏に著しいかすり傷症状（シルバリング症状）が見られ（写真2、図1、2）、被害の大きいほ場では、クロゲハナが優占していることが明らかとなった。
- (3) アザミウマ類は、キクの葉にかすり状の白い傷と黒褐色の汚斑を引き起こす害虫である。福島県内では、これまでにキクを加害するアザミウマ類として、優占種のみカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマなど7種が確認されており、クロゲハナは太平洋沿岸部の地域でのみ確認されていた。

【被害・発生状況】

クロゲハナの寄主範囲は広く、コスモス、ヒマワリ、ランやトルコギキョウ等の花きに寄生し、キク科に加えて、キュウリなどのウリ科、ナスなどナス科などの農作物を加害する。

成虫の体長は雌約1.3mm、雄約1.0mm、体色は淡黄色。前胸と有翅胸節に黒褐色のまだら模様があることで区別できる（写真1）。卵は植物組織に産み込まれ、成虫・幼虫ともに、主に葉裏に生息し、老熟した幼虫の大半は土壌表面や落ち葉の中で蛹化する。卵から成虫までの発育期間は、25℃では約15日である。

キクでは、葉裏に寄生し、かすれ状の小白斑（写真2）を生じ、商品価値を低下させる。本県での花卉の被害は認められていない。また、本種による病原体の媒介は確認されていない。

【防除対策】

- (1) ほ場周辺からの侵入を防ぐため、周辺雑草の管理を徹底する。
- (2) 青色粘着板等を用いて、アザミウマ類の発生動向を確認しながら、早期防除を実施する。
- (3) 粒剤株元散布を行い、生育初期からアザミウマ類を低密度に維持する。
- (4) クロゲハナによるキクの被害葉はハダニ類によるかすれ症状と類似しているため、寄生種を確認のうえ、アザミウマ類に適用のある農薬を使用する。
- (5) 薬剤散布は、葉裏まで薬剤が付着するよう丁寧に散布する。



写真1 クロゲハナアザミウマ成虫



写真2 キク葉裏の被害症状（シルバリング症状）

ハダニ類による被害と類似しているため、寄生種をよく確認する

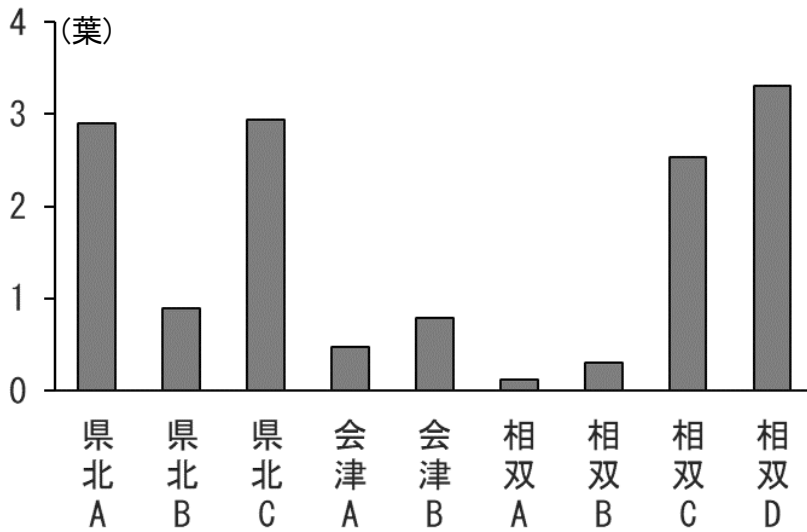


図1 アザミウマ類による1茎当たりの平均被害葉数（令和5年10月調査）

※ 1ほ場当たり任意200茎、1茎当たり4葉を調査

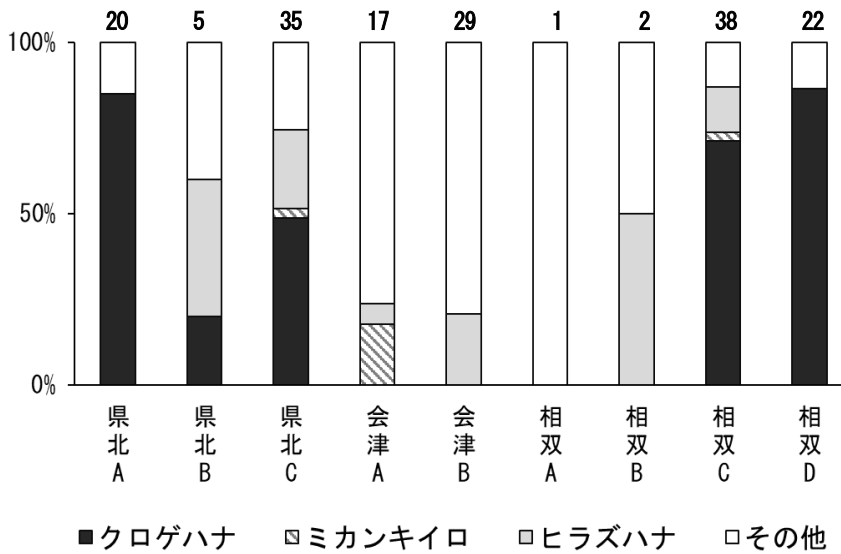


図2 アザミウマ類の種構成割合（令和5年10月調査）

※ 1ほ場当たり任意200茎を叩き落とし法により調査

※ グラフ上の数字は採取全個体数 ※種名は略称

● 情報内容への質問や要望は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課（病害虫防除所）まで御連絡ください。

TEL : 024-958-1709 FAX : 024-958-1727 e-mail : yosatsu@pref.fukushima.lg.jp